

いばらき自転車活用推進委員会の議事要旨

- 1 日時 令和5年3月28日（火）10:00～12:00
- 2 会場 茨城県庁12階県民生活環境部議室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり
- 4 結果
 - ・今回の計画（案）に基づき、今後取り組むべき具体的な施策について議論が交わされ、引き続き、委員の評価、フォローアップ、事業の検証を通じて進めていくことが了解された。
 - ・今後の計画策定においては、事務局と委員長での一任を委員から承諾されたので、パブリックコメントの回答案に対し記述の追加する意見が出たことも受け、事務局と委員長の調整のうえ、計画及びパブリックコメントの結果公表を行うこととなった。
 - ・主な意見等については以下のとおり。

○これまでの経緯

- ・【事務局】 自転車活用推進計画については昨年2月の会議で計画案を議論いただいたのち、修正案に対するご意見をいただき修正を行ってきた。並行して、その中のサブルートの部分で市町村とのすり合わせで時間を要したところ。
サブルートについては調整が今をもって合意にいたっていないことから、本計画には当面この部分を明示せず、改定を行うことをご承認いただきたい。
- ・【平田委員】 改定が遅れた分、現在の計画及び議論した素案をもって施策を進めていたことは理解している。
計画年度は1年短縮するとのことか。
- ・【事務局】 当初の議論でも2026年度までに成し遂げたいところでご意見をいただいているので、計画最終年度は変えず提案したい。
- ・【平田委員】 サブルートについて市町村とすり合わせに時間を要したとのことだが、どのあたりが課題であったのか。
- ・【事務局】 河川敷の管理の部分をどのような形で行っていくかの調整の部分で合意にいたらなかった。引き続き調整を図りつつ、合意にいたれば一部改定を含めて対応していく。合意がない中、案としてでも計画として外に出してしまうことは、市町村には大変申し訳ないところ。中長期的にみて今回の対応とした。
- ・【平田委員】 なあなあで見切り発車するよりはいい判断。
地元市町村と県が真剣に話し連携したモデルケースになる。このような議論は他の地域でも出る話なので、時間をかけより良い形になるよう、引き続き連携いただきたい。

○いばらき自転車活用推進計画（案）及びパブリックコメントの結果について

（パブリックコメントの回答について）

- ・【平田委員】 パブリックコメントをもって計画を変更したところはないと理解していいか。
- ・【事務局】 変更したところはない。
- ・【平田委員】 今回の委員会で意見があれば、直すところは直すほか、パブリックコメントへの回答も直すべきところあれば検討いただきたい。
全体的に回答が弱いと思う部分がある。貴重な意見であるので、できるだけ前向きに書いてほしい。
- ・【本村委員】 パブリックコメント 21 の「通学手段で家族送迎が増えており、環境に影響があるなか、学校別など詳細に調査することで、自転車通学推進活動ができるのではないか？」との意見があるが、成果指標として「県民が直近 1 年間で自転車を活用（サイクリング含む）した割合」を 10.3%から 20%にあげることを目標としているのだから、そのような地域ごとの調査をすれば、どうすれば割合をあげていけるのか、戦略をたてることができる。コメントにあるように学校別というのは難しいのかもしれないが、詳細に調査することで自転車を推進することが意見の趣旨ととらえるのであれば、この回答が噛み合っていないと思う。
- ・【中島委員】 成果指標の自転車を活用した割合が低いように感じる。どのような調査をもとにしているのか。
- ・【事務局】 県民の運動・スポーツの実施状況を調査するため、民間調査会社のインターネットリサーチモニターから 18 歳以上の県民 1,000 人を対象としている。
コメントの提案に対しては、各学校に大きな負担を求めることとなり、現時点で実施を確約することは困難。より詳細な現状把握が施策の推進上有効であるということには異論はないので、様々な主体と協議しながら、より有効な現状把握の方法を検討・実施していく、といった回答に改めたい。
- ・【平田委員】 パブリックコメント 1「成果指標としてアンケートで問われた内容が不明なので数字があてにならない。調査したことは計画として掲載すべきです。」やパブリックコメント 2「計画案を実施した場合の交通事故件数は減りますか？」についても、目標を決めている部分なので、どうやってそこに近づけていくのか示すためにも、前向きなコメントが必要。
- ・【室谷委員】 最初の計画を作って、イベントやインフラ整備は進んでいるが、計画に基づいた効果検証が弱いのではないか。効果検証はがんばったあかしである。
- ・【中島委員】 りんりんロードの利用者は毎年公表しているのだからとみてがんばっているのがわかる。ツーリズムだけでなく、ほかの指標も定期的に発表していくとがんばりが伝わる。
- ・【平田委員】 1 次計画の内容については継続的にモニタリングできているのか。
- ・【事務局】 1 次計画のモニタリングは行っている。現在の指標もでたらめな数字を出しているわけではない。検証についてはもっと効果的に行えるよう努めていきたい。
- ・【平田委員】 データをとることはモチベーションにつながるもの。また、PDCA をまわすときに役立つので、できるだけデータはとっておいた方がいい。

(今後の取組について：情報発信の仕方について)

- ・【絹代委員】 いばらきツーリズム構想では、メインターゲットが一般観光客も含まれている。一般観光客に対しては情報がわかりづらくてはだめ。これはサイクリストでない県民も同じである。それが 10.3%ということは今出ている情報がわかりづらいのでは。一方でサイクリング情報のわかりやすさとしては、66%で目標が 80%となっている。もちろん、県で作成している WEB サイト「サイクリングいばらき」はよくなっている。ただ、サイクリストじゃない人が走り出すために必要な情報になっているのか？そこが、指標にも出ているのではないか。
- ・【事務局】 つくば霞ヶ浦りんりんロードもそうだが、はじめて来てマップを見ても経験がない人だとどう走っていいかわからない、という問題意識はある。そこで来年度は、ライドプランを提案していきたい。長いモデルルートの中の、例えば 20km くらいの部分で、ここからスタートすれば、こういった見どころ、休憩できる場所があって、2 時間ぐらいで走れますよ、というようなプランをたくさん作ってマップ化して示す、マップもより詳細な縮尺として見えるので、安心して迷わず走れる気になれる、と。こういうライドプランを来年度の目玉として目標としては 100 プラン。できれば来年度前半のうちにまとまったものを作っていきたい。ちょっと行ってみたいという人に、これなら安心、というものをつくりたいので、出来上がったらぜひ評価いただき、アドバイスもいただきたい。

(今後の取組について：ヘルメットの努力義務化について)

- ・【絹代委員】 4 月 1 日からお子さんだけでなく、みなさん、ヘルメットは努力義務となる。措置には、「自転車乗車時における適切なヘルメット着用等に向けた幼児や児童・生徒の意識向上を図る。」とあるが、お子さんだけでなく意識向上を図る必要がある。そのためには、もっとカジュアルなヘルメットを提案することも必要である。茨城県のサイトではサイクルジャージではない服装で PR している。加えて、こんなヘルメットならかぶりたい、というビジュアルも検討していただきたい。先進事例として、誰でも受け入れられる安全装備など、茨城県ならではのシビックプライドも考えてもらいたい。
- ・【事務局】 ヘルメットについては、県警、安全なまちづくり推進室、教育庁と一緒に取り組んでいる。やはり目にすることが大事であり、率先して行政側がやりましょう、ということで国からも通知があり、地元自治体にも通知をしている。これをやれば 100%とはいかないが、あらゆるところで連携を進めていきたい。ファッションブルもキーワード。メーカーとの連携なども行っていきたい。

(今後の取組について：インバウンド①)

- ・【絹代委員】 インバウンドについてはもう一步踏み込んでいただきたい。PR だけでなく、もっと英語での情報が得られるように。
- ・【事務局】 ホームページは自動翻訳の機能を設けて複数の言語に対応できるようになっている。ライドプランもインバウンドのハードルを下げるもの。どこで自転車を借りられ

て、どこで休めるか。チャレンジとしての取組であるが、よりよくしていきたい。

(今後の取組について：ライドプランについて【来年度の目玉事業】)

- ・【宮内委員】 ライドプランの部分で、ステージという言葉はぜひ使っていただきたい。これは世界的に通じる概念である。ヨーロッパ各国のナショナルルートもステージという言葉を使っている。東海道五十三次と考え方は一緒。今日はどこからどこまで行きましょうというように、設定する区間ごとに難易度を示し、攻略法が分かる方式。モデルルートは全行程を必ずしも一気通貫で走らなければならないものではない。ステージという概念はヨーロッパでも台湾でも一般的なのでインバウンド客にも受け入れられやすい。
ステージと難易度を組み合わせるのが効果的。距離が長いルートの場合、あるステージは難易度が非常に低いことがある。そこは、細長い自転車公園のようになり、住民がレジャーや健康維持のための運動に使いやすいステージとなる。
- ・【事務局】 ライドプランの着想は、宮内さんのシーサイドルートの協議会での講演から得ている。また、海浜公園のサイクリング利用者が15万人もいて、まさに自転車公園だというお話も参考になった。
そういうところを活かしながら、各階層の方に向けてのプラン作りを意識して考えていきたい。
- ・【室谷委員】 ライドプランを作ってマップを作る場合は、ぜひ委員の皆様で見てもらって作る方がいい。コロナ前はイベント等も行っていただいたライフ クリエーション スペース OVE というシマノのお店では全国のマップを配っている。茨城県のマップもよく持って行ってもらっているが、サイクリスト向け。一般の方は、土浦市の観光情報が入ったものを喜ぶ。
- ・【事務局】 今年度は試行的にネット上ダウンロードする形でのマップを考えている。
印刷はコストもかかるので評価を得てから、改良のうえ、進めていきたい。
- ・【宮内委員】 マップの作り方が、まずはインターネットで公開する。公開すると修正意見や間違いの指摘が得られる。それを修正して完成度を高めてから印刷版を作成したほうがいい。
- ・【絹代委員】 現在、ビギナーとサイクリングを行うという取組を行っている。お子さん、女性で大体 20km が限界。コース案内アプリを使って走っているが、参加者の目的は道路を走るのではなくて旅。色々立ち寄りたくなる。そうするとコース案内のアプリだと、コースを外れるとうまく戻れなくなる。結果的に Google でスポット情報をみて走る。一般の人が欲しいのはルート情報ではなくスポット情報ということ。ぜひそのような部分を意識して、ルートを走るのではなく、スポットへと視点を変えて、誰もが楽しめるライドプランを検討してください。100はなくてもいいので。
今回の計画を見直すと、家族という言葉がない。ナショナルサイクルルートは本来、自転車乗りじゃない家族連れにサイクリングしてもらおうことを考えてできている。しかしながら、そのようなルートが少ないのが課題と伺っている。
いばらきツーリズム構想にも家族という記載はあるが、サイクリングイベントについてきた家族を想定している。構想のセグメント分け、それに対する目的も見直す必

要がある。

- ・【宮内委員】 モデルルートは幹線になる。県ではモデルルートからの支線も考えているので、それをプラン化していくべき。ナショナルサイクルルート指定のしまなみ海道の場合、そこをサイクリングするプランニングをテーマにしたガイドブック『しまなみ島走ぷらん』が市販されている。島走プラン。片道約 70km のルートでも攻略法がわからないから市販のガイドブックのニーズがあるといえる。さらに求められるのはルート上にある立ち寄り先のナンバリング。地図上の数字を追って進めばいいユニバーサルなガイド方式。欧州で広く行われている“セルフガイドツアー”はすべてこの方式で荷物の移送サービスと組み合わせて行われている。立ち寄り先をナンバリングしたサイクリング地図を作っていけば、絹代さんの意見にもつながる。ナンバリングされた立ち寄り先に二次元コードの案内板を設置してその場所の情報を伝えればなおよい。
- ・【中島委員】 ちなみにステージは区間なのか、難易度なのか。
- ・【宮内委員】 区間です。県のモデルルート中で“つくば霞ヶ浦りんりんルート”が最長で 288km。しかも、形が複雑。これをどういう行程で走るのかは悩むところ。ルートの全部走るのではなく、ステージで区切ると走りやすくなる。区間ごとに難易度をつけると行程が明確になる。例えば、台湾のサイクリストは合理的なので、走りたところだけを走る。そこへ至る間は、自転車と人を運べる“補給車”という業者のサービスが利用されている。客の荷物も運ぶ、飲料と補給食も積んで提供、パンクも修理してもらえる。お金を払えばサービスを受けられるので、万人がサイクリングを楽しめる。日本ではパンク修理もできなからサイクリストではない、みたいな雰囲気もあるが、そうではない。サイクリングの援助サービス利用に慣れているインバウンド客が今後日本にくることが想定できる。
- ・【室谷委員】 しまなみ海道でも自転車タクシーとして、取り組んでいる。
- ・【宮内委員】 あとは公共交通との連携。TX でも団体ツアーでサイクルトレインを 3月 25 日に実施した。ひたちなか海浜鉄道もサイクルトレインの実証実験を昨年行った。JR 東日本の各線でも、サイクルトレインをもっと定期的に運行することを望みたい。茨城県は、自転車と公共交通の連携に関してはかなり取組が行われているがさらに進めたい。
- ・【事務局】 水郡線は毎週土日、運行するようになった。
- ・【中島委員】 宮内委員のお話は大変勉強になる。ただ気を付けなければいけないのは、対象によって重視すべきところが違う。すべての施策に共通して持つべきものと、この対象には必要なもの、必要ないもの。その整理が必要。全部盛り込むとわかりづらくなる。
- ・【本村委員】 セグメントの詳細化。マーケティングでも詳細化ができると、訪れた人への調査も確度が高くなる。このセグメントには効果があるが、ここには効果がない。別の手を打つべきと。次の施策が生まれる土台になる。先ほどの 100 のプランも色付けが出てくると次の手につながるイメージとなる。
- ・【事務局】 これまで本格的なルート、全国のサイクリストがうなるようなコースをしっかりと作ろうと、関係セクションと一丸となって進めてきた。こちらについては、ある程度し

っかりとしたものが出来つつあると思っている。そこからの気づきとして、ビギナー・エントリーはいきなり走ってもらえるの？ということから、今回はそちらに比重を置いた施策を考えている。ただ、しっかりできたところは維持し、向上していく。新たな取組は実際評価していただき、常に検討を進めていく。私共はこれはチャレンジとして考えており、大枠として計画では誰もが楽しめると思わせていただき、実際の取組を進めていきたい。

- ・【平田委員】 1次計画はプロ目線。ブランディングとしてはすごいところ。そこで終わるのではなく、ブランド化して、走りたいと思った人がどう走ろうか悩んでいるのが現状。そこで県民、ビギナー、一般観光客にフォーカスして、過去の議論をもとに作られていることが分かると思います。そこがもっと明確に示せるといいのかなど。所信表明とか。
- ・【事務局】 具体的な取組、事業は予算成立が必要であり、長期計画のなかで明示することは限界がある。ただ、今年は何をやるのかということを経年示していくことは可能だし、やっていくべきことと考えている。
- ・【平田委員】 事務局の中ではつながっていて施策が順々に進んでいる。計画でもその言葉が入っているが、伝わりづらい。計画は仕方ないかもしれないが、しっかり目玉施策は伝えてほしい。

(今後のフォローアップ；基盤となる施策からの検討等)

- ・【本村委員】 4年後をイメージして聞いていたが、施策ベースで達成したかということとアクションとしての施策を考えると、100のプランは個々の目標に横断的に使えるものではないか。今のフォーマットでは書きにくくて埋もれてしまうのではないか。そのような基盤的なものが出来たということになれば、何かしら今から表現を工夫したほうがいい。
- ・【平田委員】 基盤となる施策やアクションは切り出して示してフォローして、個別の部分はそこにぶら下げるなど、今後のやり方を考えていくべきでは。
- ・【事務局】 今後の検証に際しては、具体的に取組んだことを評価、フォローしやすいフォーマットを考え、委員の皆様にご相談させていただきながら進めたいと考えています。
- ・【平田委員】 絹代さんからは、100も作らなくてもという意見もありましたが…
- ・【絹代委員】 そういう意味ではなく、まず、1個、2個大事なものを作ってもらいたいという意味で。作っていただくのはもちろん構いません。
- ・【平田委員】 ステージ、攻略、難易度という話があって想像してしまうのですが、初心者や子供も走れるコースがほしいと思います。そこには安全教育は必要だと思います。そういう基盤ができれば、他の施策にもつながってくると思います。ただ楽しむだけではなく。
- ・【事務局】 そういう意味では、既にりんりんポート土浦は、起点であり、駐車場もあり、レンタサイクルは子供用もある。茨城県のサイクリズムの強みが凝縮されている。こういったものを維持するためには色々な協力が必要。りんりんスクエアやBEB5などといったものがあるなど官民の取組が組み合わさってできている。今後は、採算にのるような民間ベースの協力を求めるのも重要。そこに注目を向けるためにもプラン

といったものが必要で、平田委員長の言うとおりに、拠点という見せ方だと思います。そこに計画的なエッセンスも詰め込めることで充足させていきたい。

(今後の取組について：インバウンド②+首都圏への情報発信)

- ・【平田委員】 今後交流といったものも必要となるが、宮内委員のいう台湾とか。
- ・【宮内委員】 茨城県はコロナの規制が解禁してすぐの2月に、知事の台湾トップセールス、現地サイクルルートとの観光交流友好協定も行き先進的である。3月開催の台北サイクルにも出展するなどPRに積極的に取り組んでいる。台北サイクルでは日本からは、茨城県と静岡県だけ独自にブースを出展していた。静岡空港から台湾直行便はまだ復活していないが、コロナ禍前は毎年、静岡空港発着の台湾サイクリングツアーを催行していた。来てくださいだけでは効果はない、来てほしいならこちらからも行くという交流が重要。静岡県のツアーは5年間続けた結果、密なネットワークができて、それで台湾発着のサイクリングツアーを呼ぶことができるようになった。茨城県も空港を持っているので、そのくらい積極的にサイクリング交流にもraitたい。それから、ツアーは県内の旅行業者がやらないとノウハウが残らない。しまなみ海道も地元旅行業者がツアーを行っている。インバウンド客にアンケート調査を実施することは重要。何がよかったか、何をしたかったか、何が足りないかを知るために必要。ターゲットとしては、サイクリング愛好者と一般観光客の両方。空港に近いナショナルサイクルルートの“つくば霞ヶ浦りんりんロード”と、レンタサイクルシステムもある。インバウンド誘客はすごい可能性があると思う。
- ・【室谷委員】 台湾もそうだが、ぜひ東京もターゲットにしたプロモーションをしてほしい。OVEやそのほか業界団体が都内でイベントを行う。5月6日には豊洲でも。横浜サイクルスタイルも5月に行う。サイクリストだけでなく一般観光客向けでもある。
- ・【宮内委員】 5月5日は国が定めた自転車の日で東京の明治神宮外苑でサイクルフェスタもある。ぜひ、そういったイベントも視野に入れてPRに努めていただきたい。また、東京・青山にあるシマノが運営するサイクルカフェ“OVE”でもサイクリング用のパンフレットや地図を無料で配ってくれるので、ぜひ活用していただきたい。

(まとめ)

- ・【平田委員】 色々のご意見をいただきました。その他、お気づきの点がありましたら、事務局にメールでも電話でも構いませんので、よろしくお願ひします。
本日、委員のみなさまより頂いたご意見を踏まえ、事務局で整理していただきたいと思ひます。その後の取扱いにつきましては、事務局と委員長への一任とさせていただきますと思ひますが、よろしいでしょうか。

<委員承諾>